

声解析 気持ち読み取る

横浜市中区のリスク管理会社「リスク計測テクノロジーズ」が、声だけで感情を判別するアプリ「Motivive 1(モチベル)」の販売を始めた。介護施設や心理カウンセラーなどの間で昨年からの試験的に導入されており、サービス改善に一役買っている。岡崎貴治最高経営責任者(CEO)(41)は「今後、医療・介護の現場で働く人を中心に、あらゆる仕事に貢献したい」と話している。

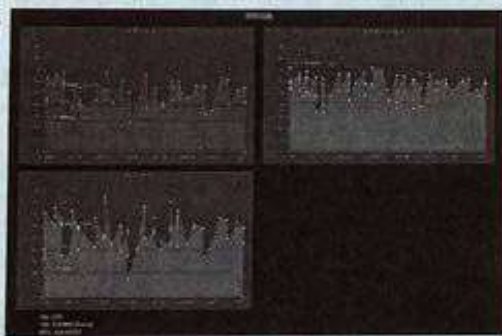
(白井亨佳)

アプリ開発 介護など活用へ



アプリを開発した岡崎CEO(右)と運営する施設で取り入れている三戸社長

声で分かる「バイタリテイ」「リラクゼーション」「プレジャー」の測定結果(リスク計測テクノロジーズ提供)



「これに声を入れてください」

同市港南区の介護施設「デイサービスプレゼンス」で4月中旬、職員が利用者の女性にタブレット端末を向けると、女性は名乗った後で「どうもよろしく」と吹き込んだ。声を発したのにはわずか5秒。穏やかな表情で話したように見えた

かながわ 経済

が、端末に出た「喜び」を表す数値(100点満点)は33点。施設を運営する同市金沢区の「プレゼンス」の三戸究允社長(37)は、「この方はリウマチで、実は無理をしているのかもしれない。気にかけていかななくては」と話した。

アプリの使い方は簡単だ。「計測開始」のボタンを押して声を5秒程度出すと、喜びを表す「プレジャー」や、落ち着きが分かる「リラクゼーション」、事故のリスクを意味する「ヒヤリハット」など、6項目で結果が出る。岡崎CEOがかつてコンサルティング会社に勤めていた際、「社員の退職や事務処理ミスなどのリスクを把握する指標を作りたい」と思い立ち、2019年に同社を設立。アプリを完成させた。

アプリは昨年4月から、同施設の利用者60人と職員13人を対象に活用されている。認知症の利用者に普段はしない食事の準備をして

もらうと、元気を示す「バイタリテイ」の数値が上がった。一方、相性が悪い利用者同士が近くに座った日には、表情は同じでも「プレジャー」が低くなっていったこともあり、その後、席の配置を工夫するなどしたという。三戸社長は、「意思疎通が難しい利用者でも、表情だけでは分からない感情が数値として出てくるので、我々のサービスが適しているのか分析しやすい」と評価している。

職員も、多忙な月末の計測結果は芳しくないこともある。業務量を調整するなどしているといい、職場での早期対応に期待できる。岡崎CEOは、「コロナ下でストレスを抱える人たちや、社会とのつながりが減って孤独感を感じるお年寄りを元気にする手段になれば」と話している。アプリの購入は同社のホームページから。料金は対象者1人につき月額330円。